

高等学校における「くまもと『親の学び』プログラム」の効果的な活用を研究・実践

～「親の学び」研究指定校事業～

社会教育課

各学校におかれましては、日頃から、くまもと「親の学び」プログラムをはじめとする家庭教育を支援する施策にお取り組みいただいております。

さて、県教育委員会では、「くまもと家庭教育支援条例(第13条)」に基づき、将来大人となる中・高生の自立を促し、大人になることへの自覚を高めるため、研究指定校を指定して、効果的な支援方法の研究・実践に取り組んでいます。研究指定校は、熊本県立小国高等学校です。小国高校では、くまもと「親の学び」プログラムを「新入生宿泊研修」と「家庭科の学習」で活用し、高校生に親になるための学びの機会の提供を行っています。



新入生宿泊研修

3年後の進路選択や将来の自己実現及び自立をテーマに、90分の講座を行いました。

この講座を通して、98%の生徒が「将来」や「自立」について、前向きな気持ちを持つことができたと回答。また、生徒同士のグループワークを随所に盛り込んだことで、生徒が互いのコミュニケーションを深めていました。

生徒の自己評価(新入生宿泊研修)

■できた ■まあまあできた ■あまりできなかった ■できなかった

まわりの人とコミュニケーションを深めることができましたか。



「将来」や「自立」について、前向きな気持ちを持つことができましたか。



学習課題

自分の将来設計と自立について考えよう

展開

①20年予想S～プログラム9～

Step 1 (個人でワークシートに記入)

これから20年間で、起こると思う出来事を予想してワークシートに記入しよう。

Step 2 (グループで意見交換)

記入して気づいたことや、印象に残ったことなどをグループのみんなに紹介してみよう。



将来のことを含まえて違う方向から考える事ができた...

②メッセージfor me～プログラム5～

Step 3 (自立に向けて、今やるべきことを考える)

身近自立	社会的自立
決まった時間に寝る・起きる	ルールの尊重
自分の部屋の整理整頓	責任の自覚
食事の準備 後片付け etc...	家族・社会と かかわる力 etc...



指導者になれるよう、部活動を頑張っていきたい...

家庭科の学習

1年生の家庭基礎「3 親になるとはどういうことか」及び、

2年生の子どもの発達と保育「子どもの健康と生活」で小国高校宇藤教諭が「親の学び」プログラムを活用した授業を行いました。本プログラムの活用により、生徒が「親になること」や「自立」について、友達と本音で語り合い楽しく考えることができました。

～授業後の感想～



親の役割3か条をグループのみんなと考える中で、親は我が子のことをいろいろと考えてくれていて、ありがたい存在だと改めて思った。(生徒)



授業の中で、様々なプログラムが活用でき、生徒間のコミュニケーションが活発になった。(先生)

学習課題

保育者の役割について考えよう

展開

親の役割3か条～プログラム21～

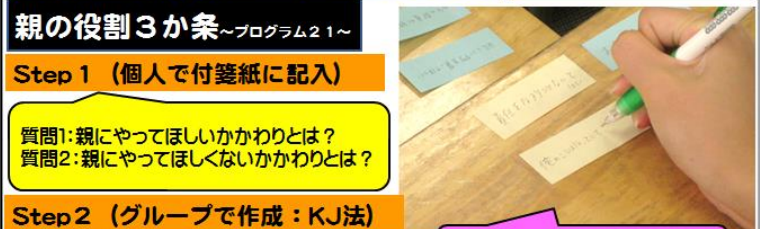
Step 1 (個人で付箋紙に記入)

質問1: 親にやってほしいかわりとは?
質問2: 親にやってほしくないかわりとは?

Step 2 (グループで作成: KJ法)

質問3: 親の役割3か条をグループで考えてみよう。

「悩んだ時に相談にのってほしい」



「親はいろいろなことに口を出してくるけど、肝心な時にかかわってほしいよね～」

2月には、1年生の家庭基礎「人生を設計してみよう」で、「親の学び」プログラムを活用して、生涯を通じた自己の生活について考える学習を行います。今後は、本事業の成果を専門家による検証委員会で検証し、家庭科の指導案や実践事例等こまごまと、県内のすべての高校及び関係機関に提供致します。

各学校におかれましても、「くまもと家庭教育支援条例」の周知や「くまもと『親の学び』プログラム」の活用を、引き続きよろしくお願ひします。



「くまもと家庭教育推進フォーラム」にて、「親の学び」プログラムを活用した小国高校での取組を発表。(H27.12.6 菊陽町図書館ホール)